

証券コード: 9066

株式会社 日新

2019年3月期 決算説明会

2019年5月30日



19/3期は増収減益ながら、
20/3期には海外事業の伸長により増収増益をめざす

目次

I. 2019年3月期 実績

P.3

II. 2020年3月期 計画

P.8

III. 中期経営計画の進捗状況

P.13

IV. (特集)化学品・危険品物流の取組み

P.20



2019年3月期実績

- 物量増加で増収も、一過性費用等で減益

2019年3月期決算 サマリー

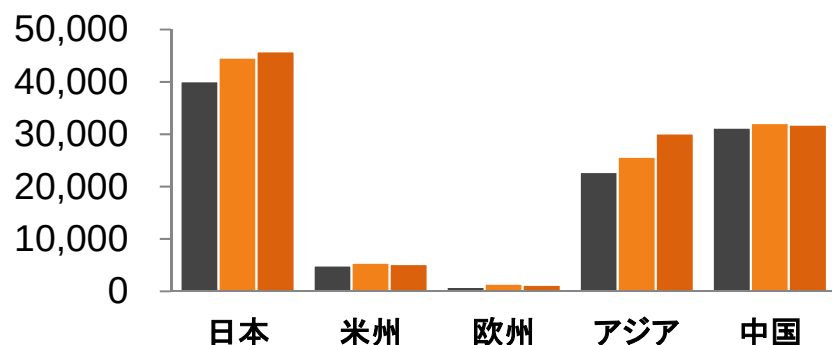
	18年 3月期	19 年 3月期			
	実 績	期初計画	実績	計画比(%)	前期比(%)
単位:百万円					
売上高	216,924	222,000	218,040	98.2%	100.5%
営業利益	6,389	6,400	5,698	89.0%	89.2%
経常利益	6,869	6,900	6,584	95.4%	95.9%
当期純利益	5,210	4,300	4,426	102.9%	84.9%

海上 航空の物量推移

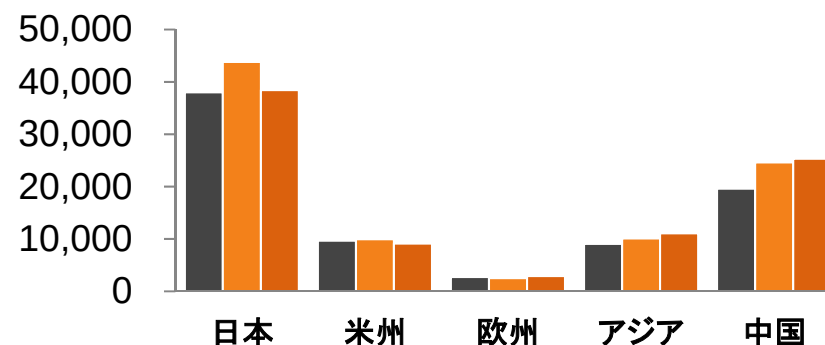
■ 全般的には堅調な取扱い物量を維持するも、米中貿易摩擦の影響で減速

■ 17/3期 ■ 18/3期 ■ 19/3期

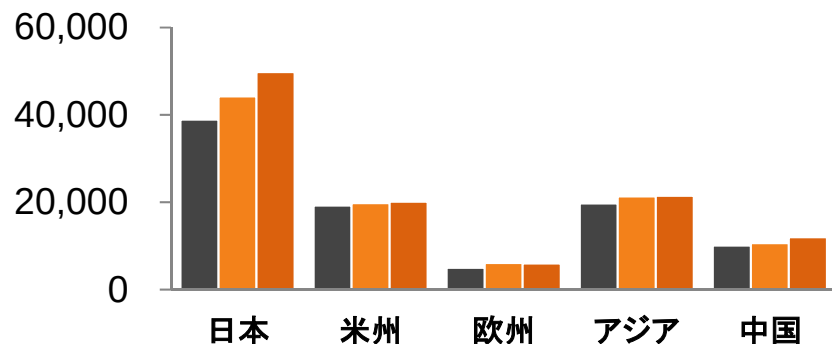
海上 輸出(TEU)



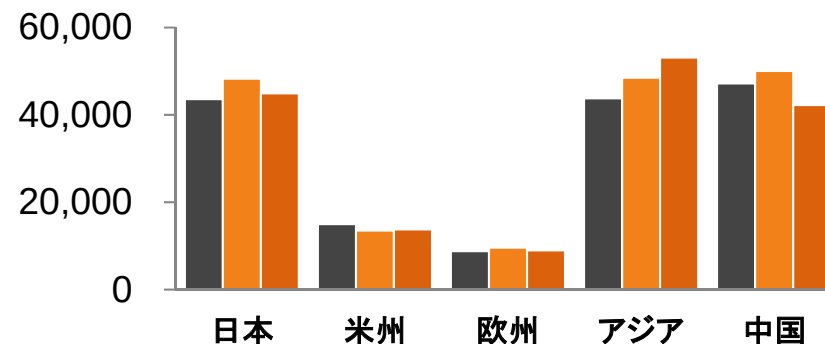
航空 輸出(TON)



海上 輸入(TEU)

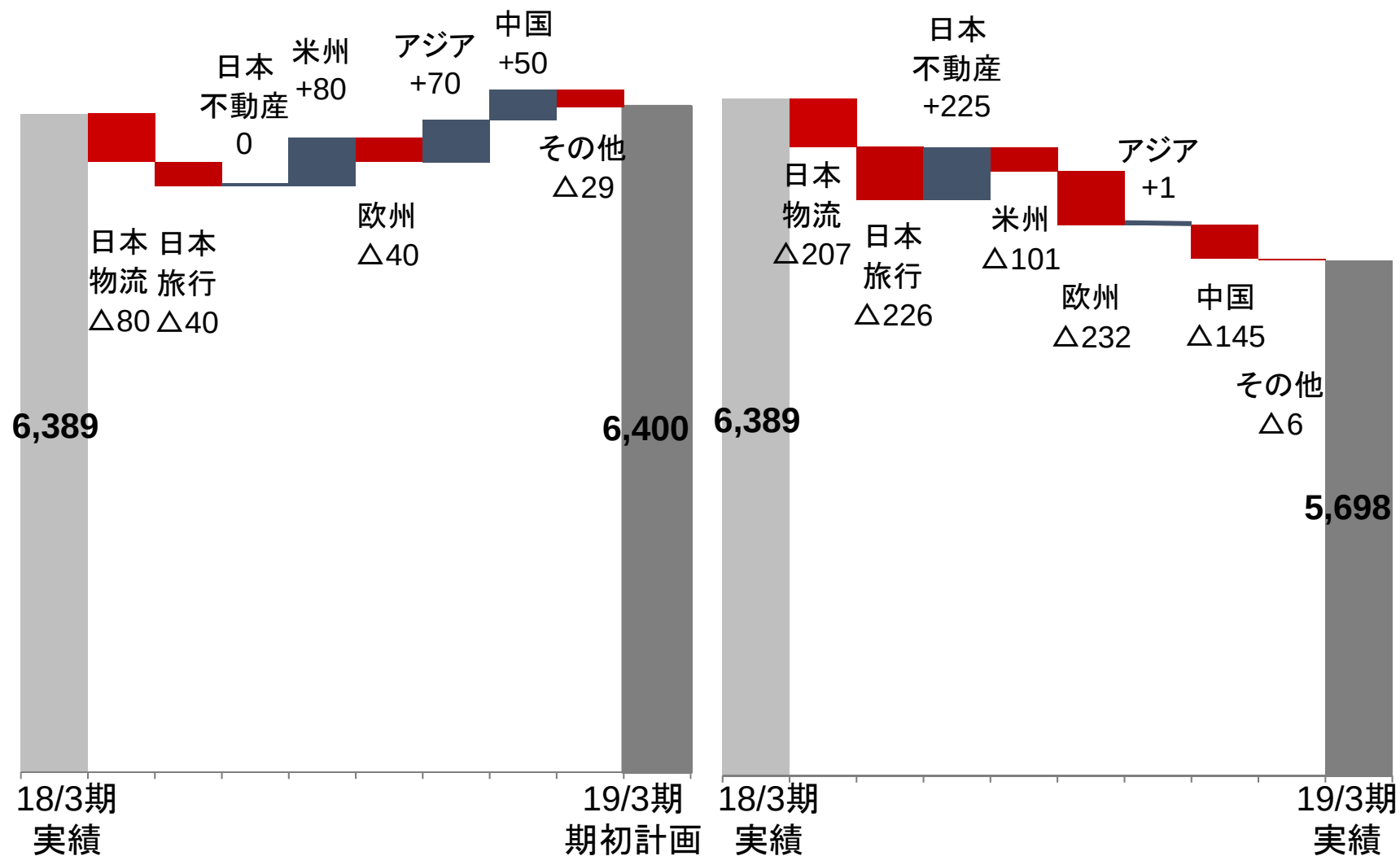


航空 輸入(件)



営業利益の増減要因分析

(単位: 百万円)



営業利益の増減要因分析前期比較

事業	地域	概況
日本	物流事業	自動車、化学品の輸出、国内危険品輸送を中心に国内各業務は堅調。 人件費上昇、施設改修、修繕等のコスト増。 自然災害による利益損失発生。
	旅行事業	売上増加なるも顧客の経費削減政策による利益率低下。
	不動産事業	商業施設が堅調に推移。
米州		倉庫業務、食品関連の輸出堅調。 メキシコ、洪水による収益悪化。 自動車のモデルチェンジ端境期による、取扱物量鈍化。
欧州		ハンブルク倉庫縮小に関連した費用増加。 ミルクラン事業の物量減少。
アジア		タイ、インドはフォワーディング事業、倉庫事業共に堅調。 各拠点での人件費上昇。 マレーシア新倉庫の減価償却開始。
中国		倉庫移転に関わる一時費用発生。 香港、上海地区で電子部品輸出入減少。



2020年3月期 計画

- 日本の物流施設拡張に伴う費用を海外事業の伸長でカバーし、増益をめざす

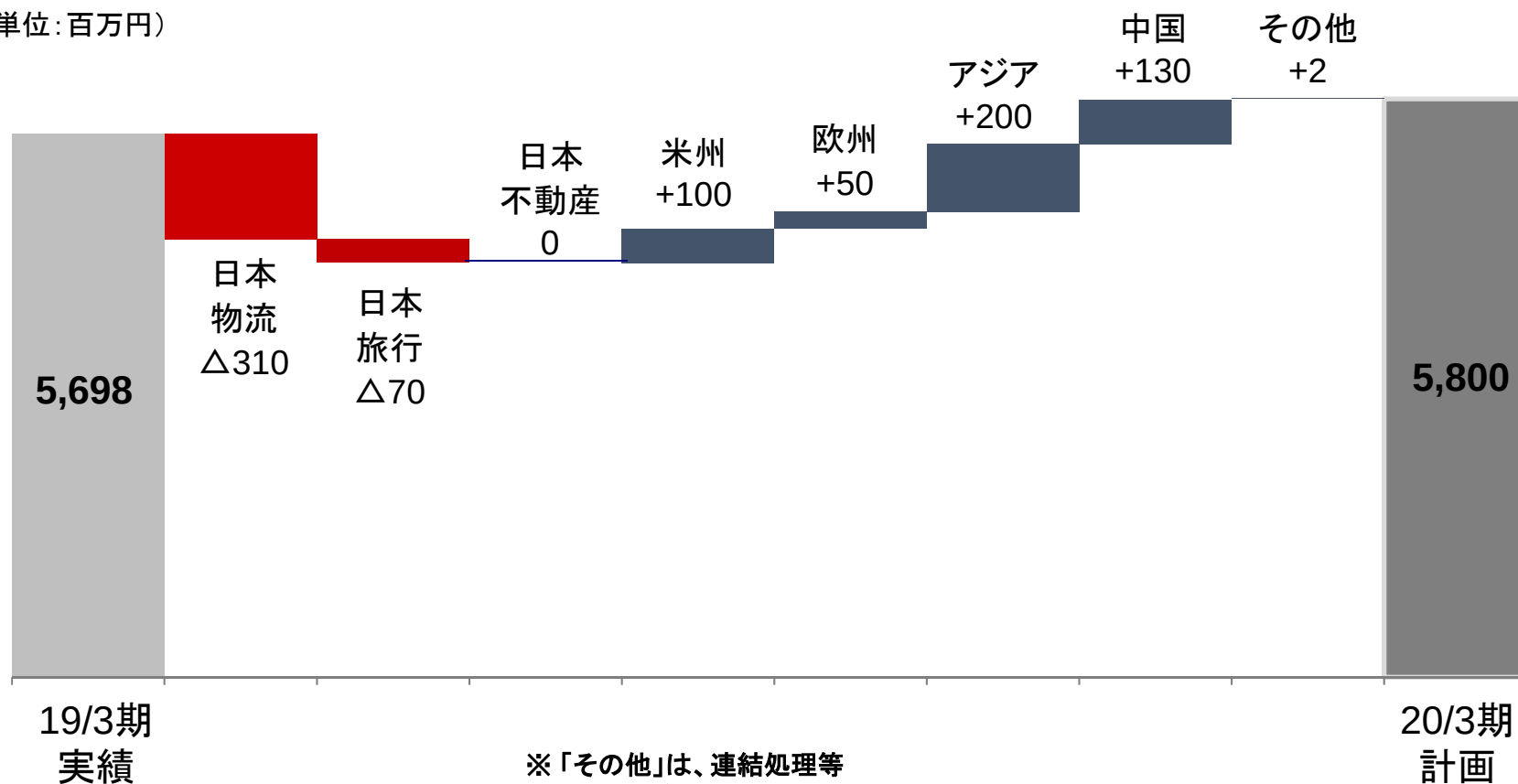
2020年3月期 通期計画 サマリー

単位: 百万円	19年3月期 実績	20年3月期 計画	前期比(%)
売上高	218,040	223,000	102.3%
営業利益	5,698	5,800	101.8%
営業利益率	2.6%	2.6%	-
経常利益	6,584	6,600	100.2%
当期純利益	4,426	4,500	101.7%

2020年3月期地域別通期計画 営業利益

■ 物流施設拡張に伴う費用を海外収益でカバーし、増益をめざす

(単位:百万円)



※「その他」は、連結処理等

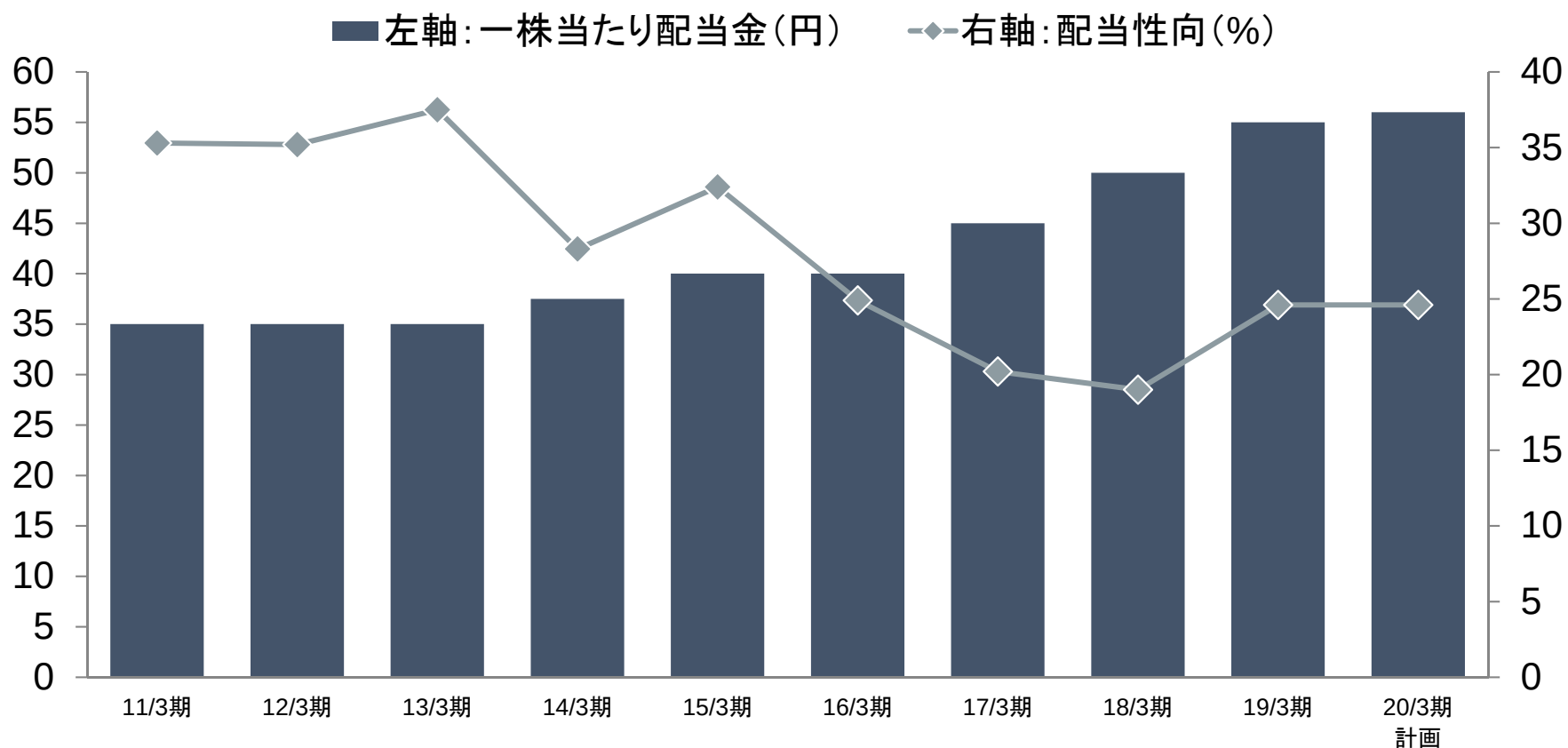
※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2020年3月期 収益増減要因

事業	地域	概況
日本	物流事業	単体物流部門は増益見込み。 新倉庫竣工に伴う償却開始。 大型修繕費用発生。
	旅行事業	MICE、インバウンド需要への営業強化。 新システムの減価償却開始。 業務渡航者微減予想。
	不動産事業	商業施設が前年並み収益確保。
米州		メキシコでの自動車ビジネスの回復と、他分野マーケットへの切り込み。 旺盛な倉庫需要への対応促進。 米国に新拠点を設立、自動車ビジネス強化。
欧州		各拠点の営業規模に即した体制整備と営業体制強化。
アジア		生産拠点再編に伴う新規貨物の取り込み。 新設倉庫の稼働率改善。
中国		中国国内市場向けDC業務の拡充、倉庫業務収益性改善。 香港でのフォワーディング事業(航空、海上輸出)拡大見込み。

配当政策

■ 株主還元の充実に努め、2020年3月期は56円に増配見込み



(注)2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

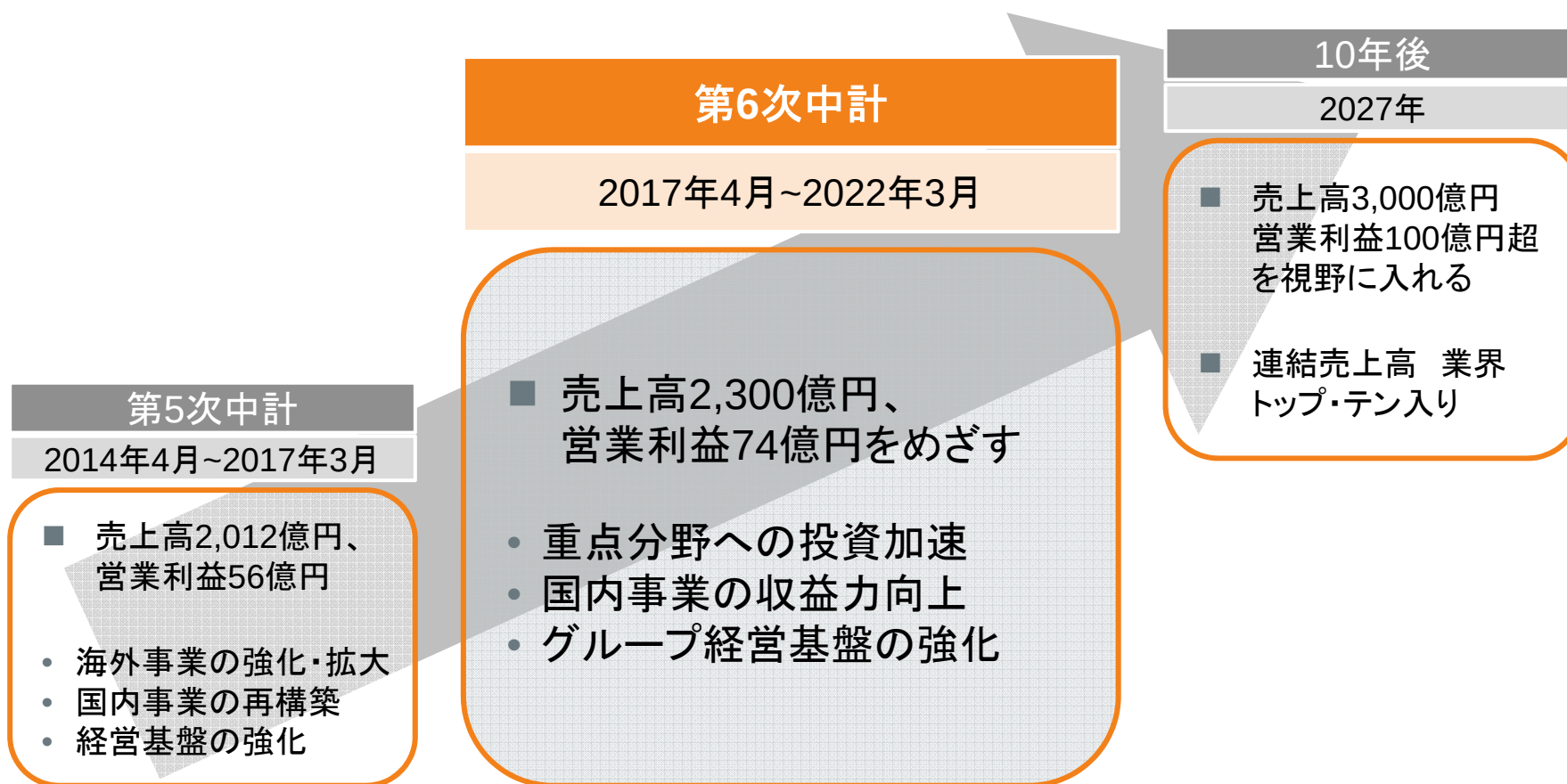


中期経営計画の進捗状況

- 中期経営計画の施策は予定通り進捗

第6次中期経営計画の位置づけ

■ 10年後を見据えた新たな課題への挑戦 海外事業の更なる拡大

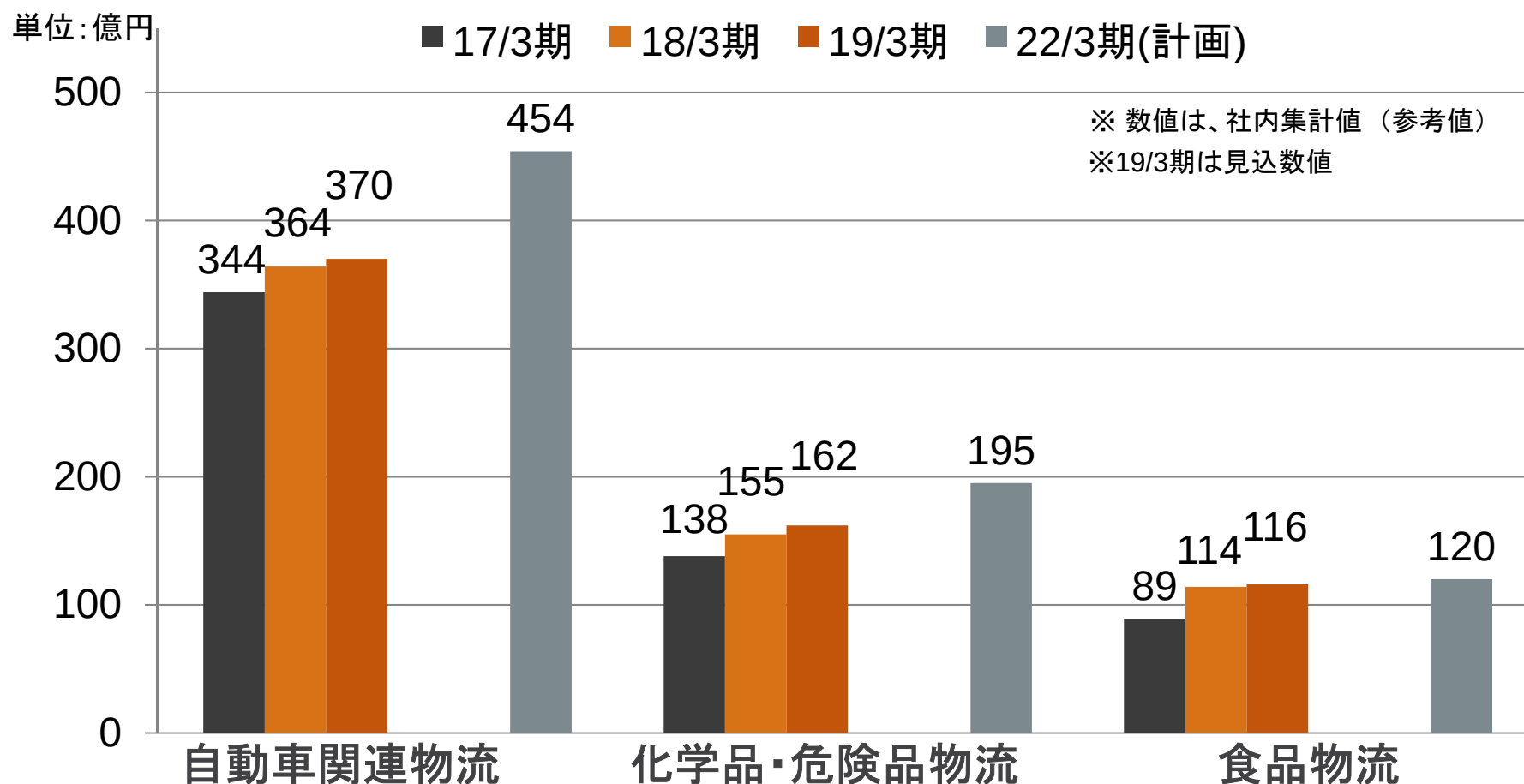


第6次中期経営計画の概要と現時点の進捗状況

基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ～世界最高品質の物流企業への更なる進化～	
期間	2017年4月～2022年3月（5年間）	2017年4月～2019年3月までの 進捗状況
重点施策	■ 重点分野 （自動車関連、化学品・危険品、食品物流）	● 重点分野順調に進捗
	■ 国内事業の収益力向上 ● 物流施設の再編 ● 業務効率化の追求 ● 物流事業・旅行事業の連携強化 ● AIを活用した提案型営業の推進	● 国内外の物流施設着工・完成 ● 業務改善プロジェクト推進 ● 通関業務へのAI導入
	■ グループ経営基盤の強化 ● ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底 ● 人材の確保と育成 ● 資金の効率化などの財務体質の強化	● CGコードによるガバナンス強化 ● 柔軟な勤務体制の導入 ● 有利子負債の削減

第6次中計の重点分野別売上高目標

重点3分野は順調に進捗



重点3分野エリア戦略と投資

■ 中期経営計画の当初目標に沿い実行

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
日 本	新規顧客開拓	国内施設の拡充	冷凍・冷蔵倉庫 施設の拡充
米 州	オハイオ 自社倉庫新設	危険品事業への参入	冷凍・冷蔵倉庫 開設検討
欧 州	非日系部品メーカーの 新規開拓	危険品事業への参入	食材の輸出入拡大
アジア	タイ倉庫拡充 マレーシア 新倉庫建設	化学品倉庫・ 化学品輸送拡充	食品物流網の構築
中 国	グローバルアカウント 各社への重点営業	危険品事業の拡充	食品物流網の構築

※オレンジ色は実行

■ 第6次中計重点施策／グループ経営基盤の強化

日新グループの持続的成長

持続可能な社会の実現

Environment



モーダルシフトの推進
リターナブルケースの利用促進
堺ロジスティクスセンター
福岡アイランドシティ倉庫

Social



英国現代奴隷法、GDPRへの対応
摩耶西倉庫
多様な働き方の提案

Governance



事業継続マネジメントに着手
リスク管理活動の推進
社外取締役の増員

企業行動憲章

2019年3月期 実績

物量増加で増収も、一過性費用等で減益

2020年3月期 計画

日本の物流施設拡張に伴う費用を海外事業の伸長でカバーし、増益をめざす

中期経営計画の進捗状況

中期経営計画の施策は予定通り進捗



(特集) 化学品・危険品物流の取組み



1. 化学品・危険品事業の現状
2. 国内施策
3. 海外施策

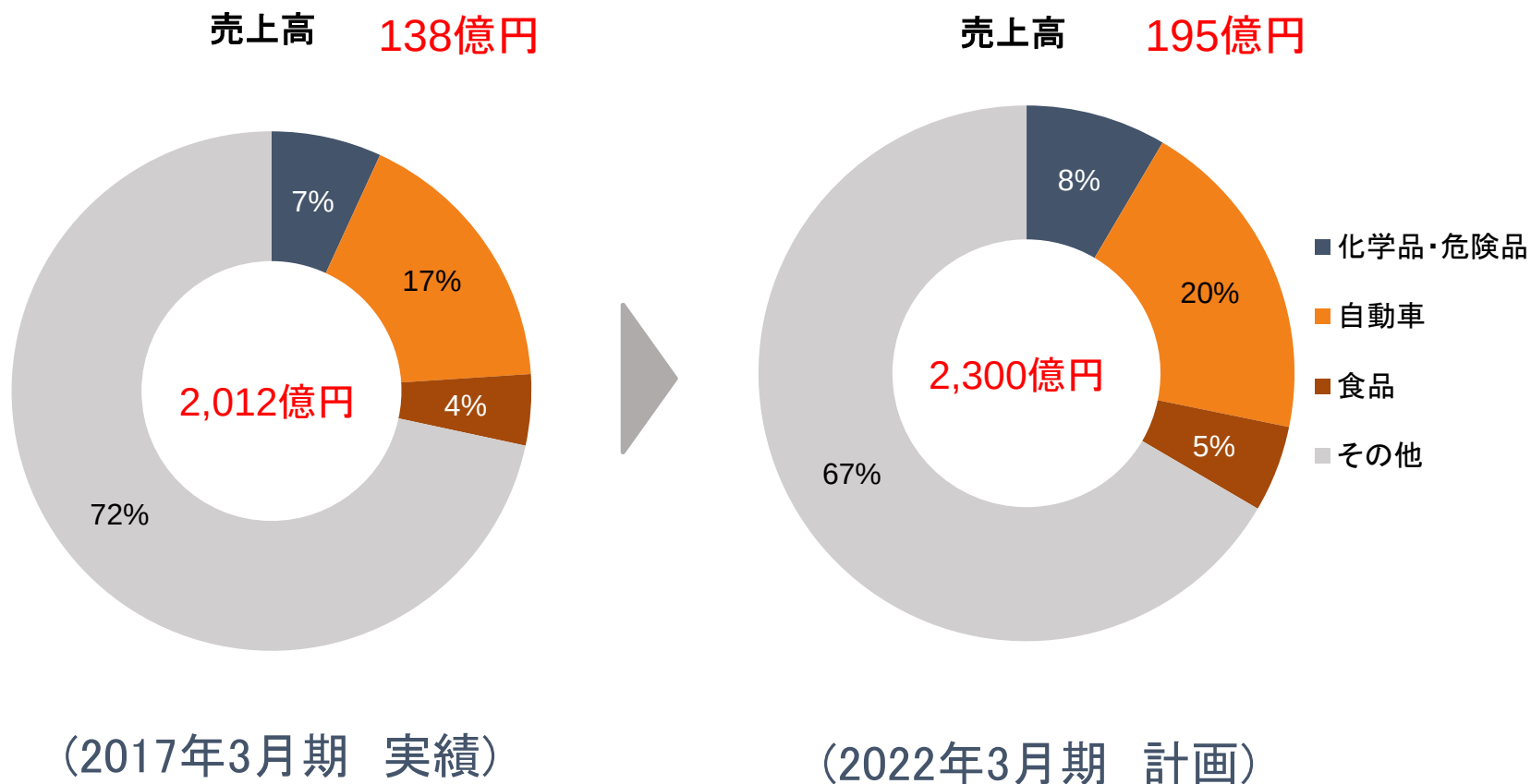
重点3分野のエリア戦略

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
日本	新規顧客開拓	国内施設の拡充	冷凍・冷蔵倉庫 施設の拡充
米州	オハイオ 自社倉庫新設	危険品事業への参入	冷凍・冷蔵倉庫 開設検討中
欧州	非日系部品メーカー の新規開拓	危険品事業への参入	食材の輸出入拡大
アジア	タイ 倉庫拡充 マレーシア 新倉庫建設	危険品倉庫・ 化学品輸送拡充	食品物流網の構築
中国	グローバルアカウント 各社への重点営業	危険品事業の拡充	食品物流網の構築

※オレンジ色は実行

1.化学品・危険品事業の現状

売上高構成



※ 数値は社内集計値 (参考値)

1. 化学品・危険品事業の現状

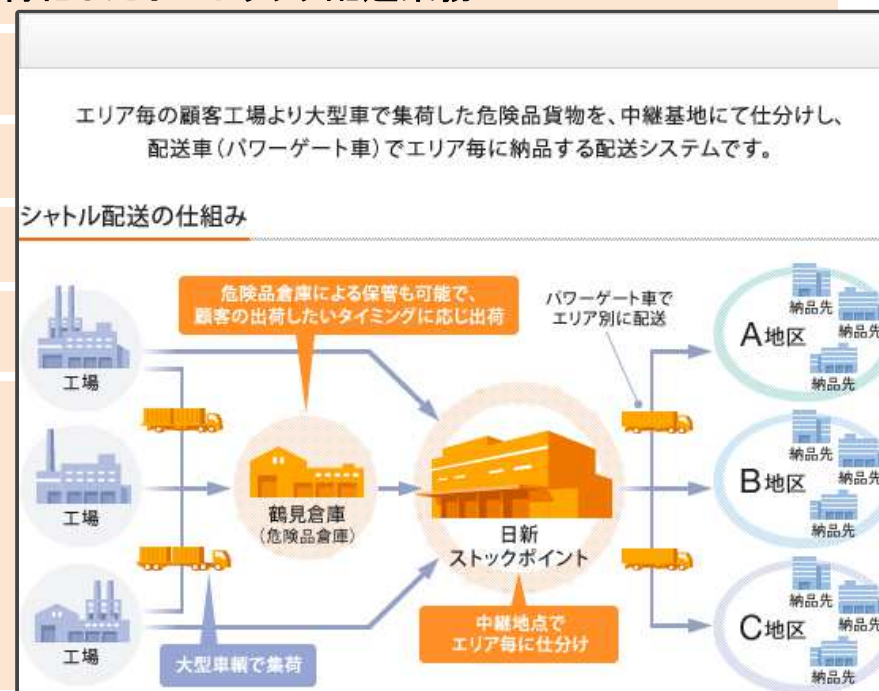
日新と石油精製・化学品の関わり



1. 化学品・危険品事業の現状

日新グループの化学品・潤滑油混載サービス

1▶ 所在地	横浜市鶴見区大黒町8-1（危険品倉庫 鶴見倉庫内）
2▶ サービス概要	危険品を含む潤滑油・化学品に特化した小口トラック配送業務
3▶ 備車会社数	15社（グループ会社含む）
4▶ 輸送実績	約 200,000 KL/年間
5▶ 輸送台数	約 130 台/日
6▶ 取扱い品目	石油製品及び化学品（10社）
7▶ 輸送先比率	神奈川、東京 ▶50% 千葉、埼玉 ▶20% 静岡、山梨 ▶10% 長野、群馬、新潟 ▶10% 栃木、茨城 ▶10% 1都10県
8▶ ポイント	すべての車両にパワーゲート車を使用することで、物流安全品質に特化した輸送サービスをご提供しております。

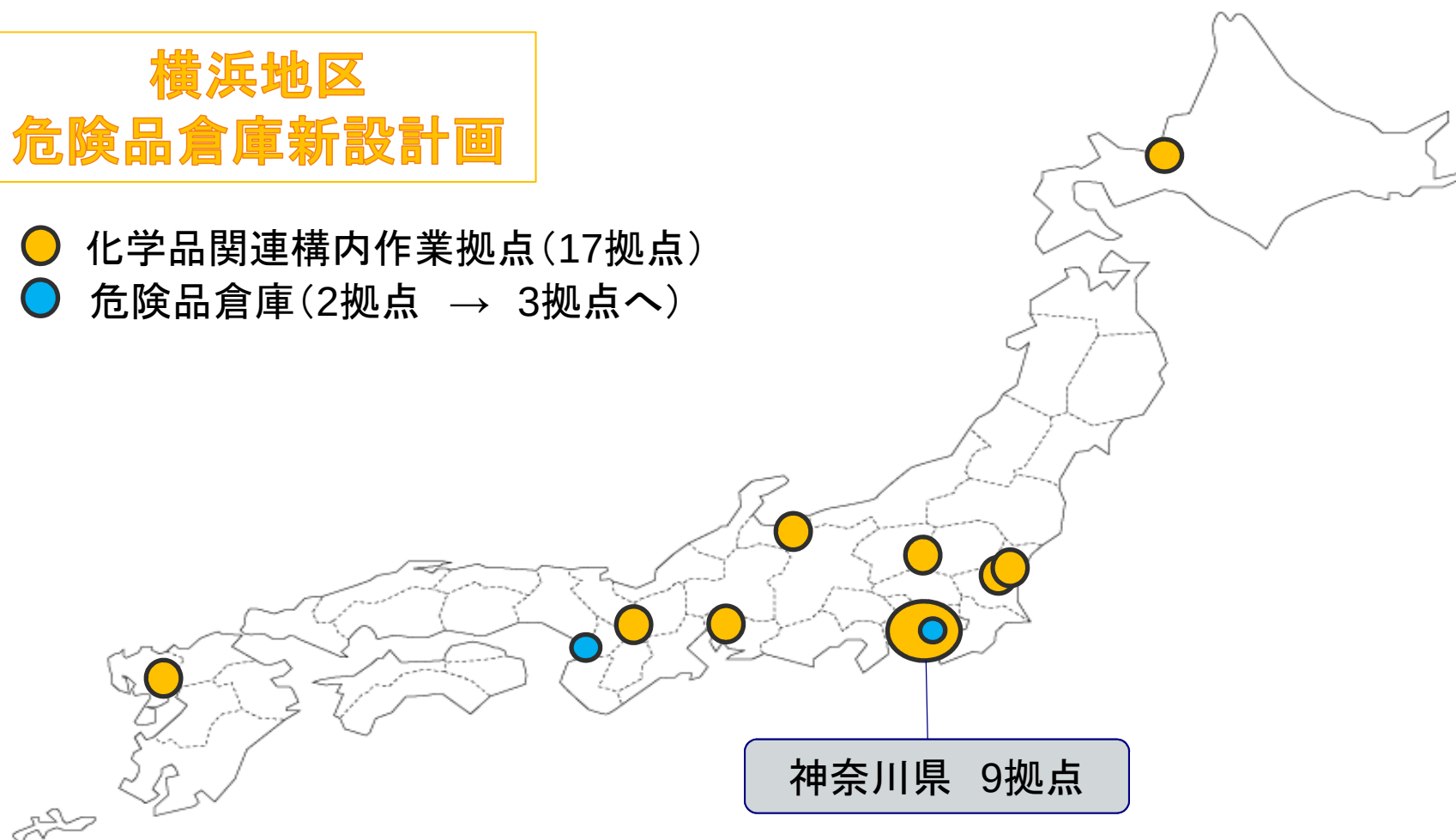


2.国内施策

国内の化学品関連拠点

横浜地区 危険品倉庫新設計画

- 化学品関連構内作業拠点(17拠点)
- 危険品倉庫(2拠点 → 3拠点へ)



2.国内施策

横浜地区での危険品倉庫新設計画

**貯蔵数量シェア拡大
化学品・潤滑油混載サービス拡充**



【鶴見倉庫】

危険品倉庫 7棟(約6,930m²)

普通倉庫 1棟(約990m²)

物流センター 1棟(約10,600m²)

屋外貯蔵所(約800m²)

一般取扱所

現状貯蔵数量 9,270KL

シェア 関東7% 神奈川県13%

【危険品倉庫新設】

危険品倉庫 5棟(約5,000m²)

屋外貯蔵所(約800m²)

一般取扱所

増設貯蔵数量 5,800KL

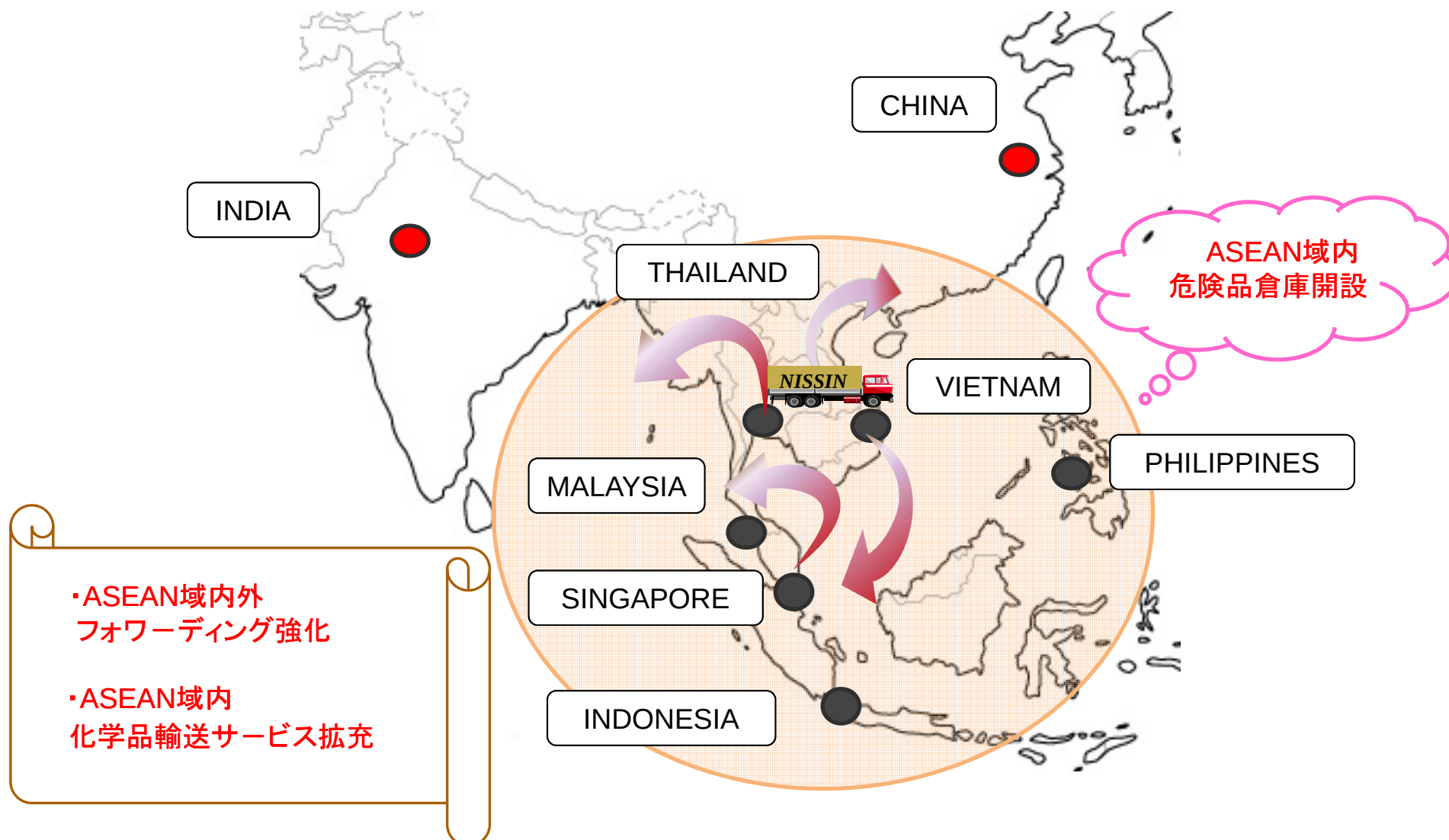
貯蔵数量合計 15,070KL

本件後 シェア 関東12% 神奈川県21%

神奈川県最大貯蔵数量を目指す
(2019年5月時点 当社調査)

3.海外施策

アジア拠点の機能強化 自動車関連物流 + 化学品・危険品物流



3.海外施策

国内輸送ノウハウの海外展開例



・ベトナム南北鉄道
グリーンライン利用による
潤滑油配送（ハノイ⇒ダナン）



・インドネシア国内
化学品・潤滑油混載輸送

- 本資料には、当社グループの将来における売上高・利益等の業績に係る計画や見通しが含まれております。
- これらは、当社グループが現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承ください。